

平成30年6月18日
独立行政法人大学入試センター

「大学入学共通テスト」における問題作成の方向性等と
本年11月に実施する試行調査（プレテスト）の趣旨について

- 大学入試センター（以下「センター」という。）では、昨年7月に文部科学省が公表した「大学入学共通テスト実施方針」（以下「実施方針」という。）に基づき、「大学入学共通テスト」（以下「共通テスト」という。）の問題作成や実施に向けた検証を行っています。昨年11月には、全国の高校・中等教育学校にご協力をいただいて試行調査¹（プレテスト²。以下「試行調査」という。）を実施し、問題作成の方針等を決定していくために必要となるデータの分析・検証を行い公表³したところです。
- 本年11月には、全国の大学を会場として2回目の試行調査⁴を実施する予定です。それに先立ち、2020年度からの共通テストの実施に向けて現在検討されている問題作成の方向性等を、試行調査の趣旨と併せて各高校等（高等学校、中等教育学校、高等部を設置する特別支援学校）及び各大学の関係者にお知らせするため、本ペーパーをとりまとめました。
- 各高校等におかれては、生徒や保護者等との情報共有にも適宜ご活用ください。また、各国公立大学におかれては、学内における所要の準備・検討に適宜ご活用ください。
その際には、このとりまとめに記載された情報は現時点での検討状況を踏まえたものであること、各教科・科目における問題のねらいや実施方法等（「大学入試センター試験出題教科・科目の出題方法等」に相当するもの）については、これから11月に実施される試行調査の分析・検証を経て、来年度初頭に正式に公表される予定であり、最終的には来年度以降の情報を確認する必要があることにご留意ください。

¹ 平成29年11月13日～24日に実施。全国1,889校の高校・中等教育学校にご協力いただいた。なお、英語及び受検上の配慮（点字）については平成30年2月に実施。

² 「大学入学共通テスト実施方針」においては「プレテスト」と表記されているが、よりその趣旨が明確になるよう「試行調査（プレテスト）」の名称に改めたところ。

³ 平成30年3月26日付で「大学入学共通テストの導入に向けた試行調査（プレテスト）（平成29年11月実施分）の結果報告」を公表（センターのHPで閲覧可能）。

⁴ 平成30年11月に実施する試行調査の日程等については、別紙のとおり。

1. 問題作成の方向性

(1) 大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成

- 大学入試センター試験の問題については、試験問題評価委員会を設置し、毎年度、高校教員からの外部評価を受けるとともに、関係する教育研究団体等からも意見をいただき、改善を重ねてきています。全体としてはおおむね、高校等における日常の教育活動を踏まえつつ、大学教育の基礎力を適切に問う問題として評価をいただいているところです。
- 一方で、さらなる良問作成に向けた工夫・改善についてもご意見をいただいています。具体的には、例えば、国語における言語活動を意識した問題や、数学的な見方・考え方を働かせることが求められるような問題、理科において実験や観察に基づく探究活動を通じ科学的な思考力等を問うような問題、歴史的思考力を引き出すために多様な資料を活用した問題の充実などに向けたご指摘をいただいているところです。
- こうしたご指摘は、大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力、判断力、表現力がどの程度身に付いたかを問おうとする共通テストのねらいにも通じるものです。共通テストでは、これまで問題の評価・改善を重ねてきた大学入試センター試験における良問の蓄積を受け継ぎつつ、高校教育を通じて大学教育の入口段階までにどのような力を身に付けていることを求めるのかをより明確にしながらか問題を作成し、実施していくこととしています。

(2) 高校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題作成

- 現在、高校教育及び大学教育において「何をどのように学び、何ができるようになるのか」を明確にしながらかその充実を図るため、高校等においては、指導のねらいとする資質・能力の育成を目指した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が、大学では、三つの方針⁵の策定・公表とこれらの方針に基づく大学教育の質的転換が、関係者の努力と連携により着実に進められているところです。
- 高校等と大学それぞれの段階における教育の特質を生かしつつ、高校生の学びの成果を効果的に大学に接続していくためには、高校教育と大学教育の接続段階で実施される大学入学者選抜において、どのような学習成果を問うのかが重要になります。共通テストでは、高校教育を通じて、大学教育の基礎力となる知識及び技能や思考力、判断力、表現力がどの程度身に付いたかを問うことをねらいとしています。

⁵ ①入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）、②教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、③卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- このため共通テストでは、高等学校学習指導要領において育成を目指す資質・能力に準拠し、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視します。また、作問のねらいとして問いたい力が、高校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、各教科・科目⁶において問いたい思考力、判断力、表現力を明確に整理⁷した上で問題を作成することとしています。

(3) 「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定

- 共通テストでは、高校等における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等をもとに考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視することとしています。
- 問題の中では、教科書等で扱われていない初見の資料等が扱われることもありますが、問われているのはあくまで、高校等における通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等です。初見の資料等は、新たな場面でもそれらの力が発揮できるかどうかを問うための題材として用いるものであり、そうした資料等の内容自体が知識として問われるわけではないことに留意してください。

2. 実施教科・科目等

(1) 共通テストにおける実施教科・科目（2020年度から実施）

- 2020年度から実施される共通テストにおける実施教科・科目は、別添1のとおり予定されています。
- 2020年度から共通テストに移行しますが、現行の高等学校学習指導要領に基づく学習範囲の中から問題が作成されるという点については、2019年度までと変更はないことから、過年度卒業者用の別の問題は作成しない方向で検討しています。

(2) 試行調査の趣旨と実施教科・科目（本年11月実施）

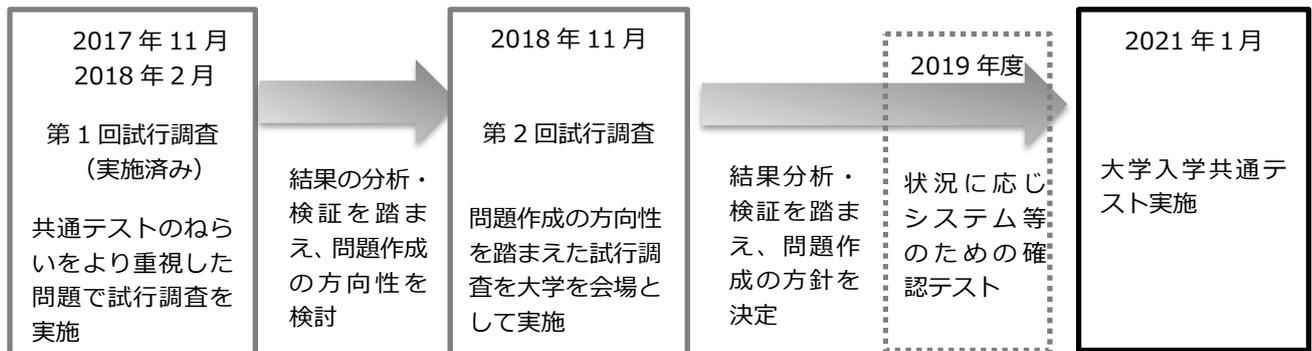
- 昨年11月に実施した試行調査では、「1」に示した問題作成の方向性を最大限重視した問題を出題した場合の正答率や解答の傾向等を分析することとし、目標平均正答率は設定しなかったところです。この試行調査の結果分析を踏まえ、共通テストにおいて問

⁶ 別添1参照。

⁷ 現在、別添2のとおり各教科・科目について、作問のねらいとする主な「思考力、判断力、表現力」等として、整理中。なお、倫理、政治・経済については、試行調査の問題公表とあわせて公表予定。

いたい知識や思考力等を重視した作問の在り方と、選抜試験としてふさわしい難易度や識別力の設定とを両立させる観点から、共通テストの問題作成の方向性を検討しています。

- 本年11月に行う試行調査は、この方向性に基づき作成した問題について全国的な回答データを収集し、共通テストの問題作成方針の決定に必要な分析・検証を行うものです。なお、平均得点率（平均正答率）については、5割程度として実施し検証する予定です。



- 試行調査においては、(1)の表に示した実施科目のうち、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「地理A」、「世界史A」、「日本史A」、「倫理、政治・経済」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」については、実施しません。
- 「地理A」、「世界史A」、「日本史A」については、本年度中に問題例を公表する予定です。また、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」については、「英語」に関する問題作成の方向性を踏まえつつ、「英語」と異なり資格・検定試験を活用する枠組みがないことなどを勘案し、問題作成のねらいや実施方法等を来年度初頭に公表する予定です。「簿記・会計」、「情報関係基礎」についても、問題作成のねらいや実施方法等を来年度初頭に公表する予定です。

(3) 共通テストの枠組みにおける英語の資格・検定試験の活用との関係

- 外国語科の科目のうち「英語」については、2020年度から2023年度まで⁸の枠組みとして、各大学は、センターが問題を作成し共通テストとして実施する試験と、民間の試験実施主体が実施する資格・検定試験とのいずれか又は双方を利用できることとされています。
- センターでは、各大学による資格・検定試験の活用を支援するため「大学入試英語成績提供システム」⁹を設け、一定の参加要件を満たすことが確認¹⁰された、本システムに

⁸ 2024年度以降の枠組みについては、資格・検定試験の実施・活用状況等を検証しつつ決定される予定。

⁹ 別添3参照。

¹⁰ 別添4参照。

参加する資格・検定試験について、受検生から申出のあった回の成績を一元的に集約し、要請のあった大学等に対して提供する予定です。

- 「大学入試英語成績提供システム」の詳細については別途お知らせしますが、原則として在学者の場合、高校3年生の4月から12月までの間に受検した2回までの資格・検定試験の結果が大学に提供されることとなります。資格・検定試験の受検の際に、センターからあらかじめ個人ごとに発行されたIDを記載する¹¹ことにより、試験実施主体からセンターに受検生の成績が自動的に送付され、大学に提供されます。提供される成績は、各試験のスコア（バンド表示も含む。）とヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の段階別表示（合否がある場合はその合否も）が基本となります。
- なお、センターが問題を作成する「英語」の試験については、「英語」以外の科目と同様に、高校教育を通じて大学教育の基礎として共通に求められる力を身に付けているかどうかを把握することが目的となります。具体的には「7」に示すとおり、義務教育段階の学習からの連続性を受けつつ「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」の科目の範囲からの出題となり、CEFRとの対応ではA1～B1相当となる予定です。

一方で資格・検定試験は、試験の目的に応じて幅広い英語力を把握することが可能です。大学の判断により多様な結果が活用される可能性があることから、「大学入試英語成績提供システム」を通じて成績提供する範囲もA1～C2の幅広い範囲¹²が想定されているところです。

3. 記述式問題の導入

- 国語と数学Ⅰにおいて、それぞれ小問3問の記述式問題が導入されます。解答用紙には新たに記述式問題の解答欄¹³が設けられます。問題の内容等についての方向性は、「7」に示すとおりです。
- 記述式問題の正答の条件や段階別評価の基準については、共通テスト実施後速やかに公表されます¹⁴。なお、記述式問題の採点は、民間事業者に採点作業を委託しながら、センターで行います。

¹¹ ID発行手続等については別途通知予定。

¹² 別添5参照。

¹³ 試行調査における解答用紙のイメージは別添6参照。また、国語の試行調査の記述式問題における記述に当たっての留意点（イメージ）は別添7参照。

¹⁴ 試行調査の実施の際には、自己採点の参考になる情報を動画等で提供させていただく予定です。

【国語】

- 国語では、20～30字程度、40～50字程度、80～120字程度を記述する問題がそれぞれ1問ずつ出題される予定です。記述式問題の導入に伴い解答時間が延長され、「国語」が100分（現行の大学入試センター試験では80分）になります。
- 国語の記述式問題については、マーク式問題の配点とは別に、記述式問題の段階別評価が示されます。段階の数については、小問ごとに4段階表示、総合評価については80～120字程度を記述する小問についてのみ1.5倍の重み付けを行った上で5段階表示とすることが検討されています¹⁵。

【数学】

- 数学Ⅰでは、数式を記述する問題、または問題解決のための方略等を端的な短い文で記述する問題が3問、マーク式問題と混在する形で出題される予定です。記述式問題の導入に伴い解答時間が延長され、「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」が70分（現行の大学入試センター試験では60分）になります。
- 数学Ⅰの記述式問題については、段階別評価は行われず、マーク式問題と同様に配点が行われます。

4. マーク式問題における新たな解答形式

- 当てはまる選択肢を全て選択する問題や、解答が前問の解答と連動し正答の組み合わせが複数ある問題など¹⁶の新たな解答形式が検討されています。試行調査における分析・検証を経て、来年度初頭に実施の有無を公表する予定です。

5. 受検上の配慮

- 受検上の配慮については、障害等がある受検生に対する合理的な配慮を行うため、現行の大学入試センター試験で行ってきた受検上の配慮事項¹⁷を踏まえ、共通テストにおける受検上の配慮事項等について検討を行っています。特に、記述式問題の解答で文字を書くことが困難な受検生に対しては、審査の上、パソコンを利用した解答を認めることについて具体的な実施方法等の検討を行っています。

¹⁵ 別添8のイメージ参照。

¹⁶ 問題のイメージは別添9のとおり。

¹⁷ 現行の配慮については別添10のとおり。

6. 成績提供の時期等

- 記述式問題の導入に伴い、センターから大学への成績提供時期は現行の大学入試センター試験よりも1週間程度後ろ倒しされる見込みです。成績については素点及び国語の記述式問題の段階別評価のほか、各科目について9段階程度の段階別評価を参考情報として提供することを検討しています。
- これに伴い、国語については、古文、漢文の大問も含めた全体の素点の提供を原則とする予定です。ただし、参考として大問ごとの素点についても提供することを検討しています。

7. 各教科・科目における問題作成の方向性と、試行調査における問題作成方針

- 各教科・科目について、昨年11月に実施された試行調査の結果を踏まえて検討されている問題作成の方向性と、それを踏まえた本年11月の試行調査の問題作成方針は次のとおりです。なお、平均得点率（平均正答率）については前述のとおり、5割程度として試行調査を実施し検証する予定です。

(1) 国語

- 近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）といった題材を対象とし、言語活動の過程を重視します。言語を手掛かりとしながら、与えられた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりすることなどが求められます。大問ごとに固定化した分野から一つの題材で問題を作成するのではなく、分野を越えて題材を組み合わせたり、同一分野において複数の題材を組み合わせたりする問題も含まれます。
- 記述式の問題は、実用的な文章を主たる題材とするもの、論理的な文章を主たる題材とするもの又は両方を組み合わせたものとし、小問3問で構成される大問1問を出題します。テキストの内容や構造を把握し、解釈することや、その上で要旨を端的にまとめ、わかりやすく記述することを求めることとし、小問3問の解答字数については、20～30字程度、40～50字程度、80～120字程度をそれぞれ1問ずつ出題します。

(2) 数学（数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B）

- 数学的な問題解決の過程を重視します。事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすこと、構想・見通しを立てること、目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順に従って数学的に処理すること、解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることなどが求められます。また、日常の事象や、数学の

よさを実感できる題材、教科書等では扱われておらず受検生が既知ではないものも含めた数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等も取り扱うこととしています。

- 記述式の問題は、数学 I において設定することとし、マーク式問題と混在させた形で小問 3 問を出題します。数式を記述する問題、または問題解決のための方略等を端的な短い文で記述する問題を出題します。

(3) 地理歴史

(地理 (地理 B))

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視します。事象の空間的な規則性を分析して地域性を捉えることや、地域の変容や構造について考え、地域の課題を理解し将来像について構想していくことが求められます。系統地理と地誌の両分野からのアプローチを意識した問題も含まれます。

(歴史 (世界史 B、日本史 B))

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視します。用語に関する知識ではなく、事象の意味や意義、特色や相互の関連等に関する理解が求められます。教科書等で扱われていない初見の資料についても、そこから得られた情報と授業で学んだ知識を活用しながら、仮説を立てたり、歴史的事象の展開を考察したりすることができるかどうかを問う問題や、時代や地域によらず「歴史の見方」のようなテーマを設定した問題、時間軸を長く取った時代を貫く問題なども含まれます。

(4) 公民

(現代社会)

- 現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視します。文章や資料をしっかりと読み解きながら、重要な概念や理論等を活用して考察することが求められます。身近な社会的事象に重要な概念や理論等を適用して考察する問題や、各種の統計など多様な資料を読み解き、さまざまな立場から考察する問題などが含まれます。

(倫理)

- 人間としての在り方生き方にかかわる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視します。文章や資料をしっかりと読み解きながら、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして考察することが求められます。人間としての在り方生き方にかかわる倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて思考したり、批判的に吟味

したりする問題や、原典資料や芸術作品など多様な資料を手掛かりとして、さまざまな立場から考察する問題などが含まれます。

(政治・経済)

- 現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視します。現代における政治、経済、国際関係などの客観的な理解を基礎として、文章や資料をしっかりと読み解きながら、政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察することが求められます。社会的事象に政治や経済の基本的な概念や理論等を適用して考察する問題や、各種の統計など多様な資料を読み解き、さまざまな立場から考察する問題などが含まれます。

(5) 外国語

(英語)

- 試行調査においては、英語の資格・検定試験活用に関する方針も踏まえながら、「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するため、筆記（リーディング。マーク式）とリスニング（マーク式）を課すこととします。
いずれにおいても、CEFRを参考に、A1からB1までの問題を組み合わせて出題します。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な場面、目的、状況の設定を重視します。
- 筆記（リーディング）については、テキストを読み事実や意見等を整理する力、テキストの構成を理解する力、テキストの内容を理解して要約する力等を問うことをねらいとし、問題の構成や内容について検証を行います。なお、英語の資格・検定試験の活用を通じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な評価がなされる方針であることを踏まえ、試行調査においては、筆記（リーディング）の問題では「読むこと」の力を把握することを目的とし、発音、アクセント、語句整序などの問題は出題せず実施し検証することとします。
- リスニングについては、複数の情報を比較して判断する力や、議論を聞いて要点を把握する力等を問うことをねらいとし、問題の構成や内容について検証を行います。音声については、アメリカ英語以外の読み上げ（イギリス英語や英語を母語としない話者による読み上げ）も行います。
また、資格・検定試験における英語のリスニング試験における一般的な在り方や平成29年度の試行調査の結果を踏まえ、1回読みと2回読みが混在する構成で実施し、試行調査を通じて検証することとします。
- 英語教育改革の方向性の中で各技能の能力をバランスよく把握することが求められていることや、多くの英語の資格・検定試験で各技能の配点が均等となっている状況を踏まえ、試行調査においては、「筆記（リーディング）」「リスニング」の配点を均等として

実施する予定です。最終的な配点は、試行調査の実施状況や関係者のご意見等を踏まえながら決定されます。いずれにしても、各大学の入学者選抜において、4技能を総合的に評価するよう努めるという実施方針を踏まえつつ、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかは各大学の判断によるという点に変わりはありません。

(6) 理科

(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎)

- 日常生活や社会と関連した科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則などの理解を伴う知識を問うたり、それらを活用したりして考察する問題や、科学的に探究する方法を用いる過程を重視します。自然の事物・現象に関する問題の中から本質的な情報を見だし、課題の解決に向けて主体的に考察・推論することが求められます。仮説を検証する過程で数的処理を伴う思考力等が求められる問題なども含まれます。

(物理、化学、生物、地学)

- 科学的な探究の過程を重視します。自然の事物・現象の中から本質的な情報を見だし、課題の解決に向けて主体的に考察・推論することが求められます。教科書等では扱われておらず受検生にとって既知ではないものも含め、資料等に示された事物・現象を分析的、総合的に考察することができるかという、科学の基本的な概念や原理・法則などの深い理解を伴う知識や思考力等を問う問題や、仮説を検証する過程で数的処理を伴う思考力等が求められる問題なども含まれます。

なお、大学教育の基礎力として共通に求められる力を測るという共通テストの趣旨を踏まえ、センター試験では理科の各科目の中で出題されてきた理科の選択問題については、高校教育における履修順序や範囲等に配慮しつつ、設定しないこととする予定です。

8. 今後の予定

- 本年11月に試行調査を実施して結果の分析・検証を行い、本年度中に結果を公表予定です。共通テストの実施に関する正式な決定事項については、来年度初頭に文部科学省が策定する「大学入学共通テスト実施大綱」を踏まえてセンターが策定する各教科・科目における問題のねらいや実施方法等に関する通知や、2020年度初頭の「大学入学共通テスト実施要項」を通じてお知らせする予定です。
- 共通テストの問題作成の体制については、本年度中に構築できるよう関係機関の協力を得て準備を進めています。新たに「問題作成方針分科会(仮称)」を科目ごとに設置し、共通テストの各教科・科目における問題のねらいや問いたい力を高校関係者も含めて検討できる体制を整備する予定です。また、センターに常勤の試験問題企画官(高校の指導主事経験者等)を科目ごとに配置し、教科教育と学問領域双方の知見を問題に反映で

きる体制を整備することとしています。具体的な問題作成を大学教員が担うという点については、これまでと変わりはありません。

- 2020年度以降の検定料については、2019年度中にお知らせする予定です。
- 2023年度までの実施状況の検証を踏まえつつ、2024年度からは、新学習指導要領に基づく新しい教科・科目によるテストが実施されることとなります。詳細については2022年度初頭頃に文部科学省及びセンターから公表される予定です。
- なお、共通テストに関する情報は、センターのホームページの右側の「大学入学共通テスト」というバナーをクリックし、詳細をご覧ください。

大学入学共通テストにおける出題教科・科目について（予定）

下線は、現行センター試験との相違点を示す。

教科	グループ	出題科目	科目選択の方法等	試験時間
国語		『国語』		100分
地理歴史		「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。	1科目選択 60分 2科目選択 130分(うち解答時間120分)
公民		「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 『倫理, 政治・経済』		
数学	①	「数学I」 『数学I・数学A』	左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。	70分
	②	「数学II」 『数学II・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	左記出題科目の4科目のうちから1科目を選択し、解答する。	60分
理科	①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	左記出題科目の8科目のうちから下記のいずれかの選択方法により科目を選択し、解答する。 A 理科①から2科目 B 理科②から1科目 C 理科①から2科目及び理科②から1科目 D 理科②から2科目	【理科①】 2科目選択 60分
	②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」		【理科②】 1科目選択 60分 2科目選択 130分(うち解答時間120分)
外国語		『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。	【筆記(リーディング)】 80分 【リスニング】(『英語』のみ) 60分(うち解答時間30分)

【国語】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

検討中

※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

※ 作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げておいて、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

※ ここでの「テキスト」は、文章、及び、文章になっっていない断片的な言葉、言葉が含まれる図表などの文章以外の情報を含む。

※ 「話すこと・聞くこと」の領域を意識した設定も取り入れる。

大学入学共通テストにおいて「思考力・判断力・表現力」を		「話すこと・聞くこと」の領域を意識した設定も取り入れる。	
<p>① テキストの内容や解釈を解答する問題</p> <p>選択式／ 短答式</p>	<p>【読むこと】（文章の構造や内容を把握すること）</p> <p>【構造と内容の把握】（叙述に基づいて、文章の構造や内容を把握すること）</p> <p>【精査・解釈】（構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈すること）</p>	<p>【読むこと】</p> <p>【考えの形成】（文章を読み解いて、自分の考えを形成すること）</p> <p>【情報の収集】（目的や意図に応じて題材を決め、情報を収集・整理し、伝えたいことを明確にすること）</p>	<p>【書くこと】</p> <p>【構成の検討】（文章の構成を検討すること）</p> <p>【考えの形成】（自分の考えを明確にし、記述の仕方を工夫すること）</p> <p>【推敲】（読み手の立場に立ち、自分が書いた文章についてとらえ直し、分かりやすい文章にすること）</p>
	<p>② テキストの全体を把握、精査・解釈して解答する問題</p> <p>選択式／ 条件付記述式</p>	<p>テキストの部分に書かれていること（構造や内容）を把握、精査・解釈することができる</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テキストにおける語句の意味や比喩等の内容を適切にとらえることができる ○ テキストにおける文や段落の内容を、接続の関係を踏まえて解釈することができる ○ テキストの特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる <p>テキストの全体に書かれていること（構造や内容）を把握、精査・解釈することができる</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テキスト全体における書き手の考えとその根拠をとらえることができる ○ 目的等に応じて情報をとらえ、テキスト全体の要旨を把握することができる ○ テキスト全体における人物相互の関係の変化や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる ○ テキスト全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる ○ テキスト全体の構成や展開、表現の仕方等を評価することができる 	
<p>③ テキストの精査・解釈に基づく考えを解答する問題</p> <p>選択式／ 条件付記述式</p>	<p>テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それに基づき考えを形成することができる</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テキストを踏まえ、推論による情報の補足や、既有知識や経験による情報の整理を行うことで、テキストに対する考えを説明することができる ○ テキストを踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、テキストに対する考えを説明することができる ○ テキストに含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、テキストに対する考えを説明することができる 		
	<p>④ テキストの精査・解釈を踏まえて自分の考えを解答する問題</p> <p>自由記述式／ 小論文</p>	<p>テキストに書かれていること（構造や内容）を把握した上で、テキスト全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テキストにおける書き手の考えを踏まえた上で、テキストに示されたテーマについて自分の考えを論じることができる ○ テキストに示されたテーマについて、仮説を立てたり、既有知識や経験を具体的に挙げたりしながら、自分の考えを論じることができる ○ テキストと自分自身との関わりを考え、自分自身の問題として論じることができる 	

【数学】作問のねらいと主な「思考力・判断力・表現力」、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

検討中

※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

※ 作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

	A	B	C	D	E
① マーク式 多肢選択式・穴埋め式	日常生活や社会の問題を数理的にとらえること 数学の事象における問題を数学的にとらえること	数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てること	焦点化した問題を解決すること	解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすること 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすること	数学的な表現を用いて表現すること
	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすことができる	数学的な問題の本質を見いだすことができる（洞察力）	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考えることができる	
	日常生活や社会の問題における事象の特徴をとらえて数学的な表現を用いて表現する（事象を数学化する）ことができる	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる（構想力）	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を様々な事象に活用することができる	
	数学の事象から問題を見いだすことができる		焦点化した問題を解決することについて、論理的に推論することができる（帰納、類推、演绎）	解決過程を振り返るなどして、数学的な見方・考え方のよさを見いだすことができる	
	数学の事象から特徴をとらえ、数学化することができる			解決過程を振り返るなどして、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていくことができる	
	数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる			解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる	
				解決過程を振り返るなどして、統合的・発展的に考えることができる	
			数学における基本的な概念や原理・法則等の理解を基に、公式や定理等を用いて問題を解決する方法を説明することができる	得られた結果の数学的意味や別の方法で解決する方略等を見いだし、説明することができる	数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりすることができる
	特定の場合に成り立つ性質が、一般の場合でも成り立つかを考え表現することができる	成り立つことが予測される数学的な事柄・事実を、数学的な表現を用いて説明することができる	問題場面における数量関係を式に表すことができる	解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりして統合的・発展的に考えた結果を数学的に表現することができる	目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて的確に説明することができる
	日常生活や社会問題について、条件を設定したり、数学の事象について、条件の設定を変更するなどして新たな数学の問題をつくらることができる	命題が真であることを証明するための根拠となる数学的事実（公式や定理等）をとらえ、問題解決に向けた構想や見通しを立てることができる		平面図形や空間図形の複合的な問題について、それらの特徴を活用して、計量したり証明したりすることができる	問題解決の過程を数学的な表現を適切に用いて説明することができる
数学の事象において数量の変化について実験して調べるなどして、新たな問題をつくらることができる	命題の真偽を類推したり、ある命題を他の同値な命題に言い換えたりして数学的な問題の本質をとらえることができる		関数や方程式・不等式の複合的な問題について、それらの特徴を踏まえて条件に通ずる数値を求めたり、証明したりすることができる	得られた結果の数学的意味をとらえ、それを数学的な表現を用いて適切に説明することができる	

大学入学共通テストにおいて問いたい「思考力・判断力・表現力」

②新テストにおける記述式

数式や問題解決の方略等の記述

③自由記述式

証明など、数学的な問題解決のプロセスを表現する自由記述式

【歴史】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

<p>大学入学 共通テスト において 問いたい 「思考力・ 判断力・ 表現力」</p>	<p>【考察・構想(注)】 ●歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる ●歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想することができる ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる</p>	<p>【説明】 ●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる ・学習課題を振り返って結論をまとめることができる ・結論について検証することができる ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる</p>
	<p>資料から読み取った情報と歴史的事象との関わりを類推することができる</p>	<p>○作問にあたっての場面設定の工夫例 ・歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなど の活動を通して、現代につながる諸課題について自分の意見を形成する場面 ・歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりする活動 を通して、新たな課題を見いだす場面</p>
	<p>歴史的事象を時系列的にとらえることができる（時系列）</p>	<p>考察したことや構想した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる</p>
	<p>資料から読み取った情報や習得した知識を活用して、歴史的事象の展開について考察することができる（推移や変化）</p>	
	<p>複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる（諸事象の比較）</p>	
	<p>諸地域世界の接触や交流などが歴史的事象にどのように作用したのかを明らかにすることができる（事象相互のつながり）</p>	
	<p>背景、原因、結果、影響に着目して歴史の諸事象相互の関連を明らかにすることができる（事象相互のつながり）</p>	
	<p>歴史的事象の多面的・多角的な考察を通して、日本や世界の歴史の展開や歴史的な意味や意義をとらえることができる</p>	
	<p>習得した歴史的概念を活用し、現代的課題に応用することができる</p>	

(注) 構想については、社会科系科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○自由記述では、以下のことを問える可能性がある。

- ・歴史的事象を多面的・多角的に考察して、論理的・効果的に表現することができる
- ・歴史的事象について考察したことを踏まえて、課題の解決に向けた自分の意見を形成して、適切に表現することができる
- ・考察したことや構想したことから、新たな課題を見いだして追究することができる

【地理】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

<p>【考察・構想(注)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地理に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察することができる ●地理的な課題を把握し、その解決に向けて構想することができる ●複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断することができる 	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる ●学習課題を振り返って結論をまとめることができる ●結論について検証することができる ●新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる <p>○作問にあたっての場面設定の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的な課題を探究する活動を通して、その解決や持続可能な将来の在り方を展望する場面 ・資料から地理的事象を読み取り、地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や課題について説明したりする場面 ・新たな発見や理解の深化を見いだし、改めて課題を設定し、情報の収集、整理・分析を行っていく場面
<p>大学入学共通テストにおいて「思考力・判断力・表現力」</p>	<p>事象について位置や分布などからとらえ考察することができる</p>
<p>事象が生起している場所の特徴をとらえ考察することができる</p>	<p>地理的事象について人間や社会と自然環境との相互依存関係などの関わりをとらえ考察することができる</p>
<p>地理的事象について空間的相互依存作用など地域間の様々な関係をとらえ考察することができる</p>	<p>地理的事象について多面的・多角的に考察し、合理的に構想（選択・判断）することができる</p>
<p>地域的特色について多面的・多角的に考察することができる</p>	<p>地理的事象を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる</p>

(注) 構想については、社会科系科目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○自由記述では、以下のことを問える可能性がある。

- ・主題図などの資料を、適切に作成することができる
- ・地理的事象を多面的・多角的に考察し、構想した結果、地域調査や諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
- ・現代世界の地理的な課題の解決について、自らの解釈も加えて意見を形成し、適切に表現することができる
- ・課題に対して、具体的な解決策を提言することができる

【現代社会】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

<p>【考察・構想(注)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察することができる ●現代社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想することができる ・複数の立場や意見や踏まえ解決に向けて選択・判断することができる 	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●考察したことや構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる ・学習課題を振り返って結論をまとめることができる ・結論について検証することができる ・新たな問い（課題）を見いだしたり追究したりすることができる 	<p>○作問にあたっての場面設定の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的現象等を多面的・多角的に考察する学習活動を通じて、現代社会の課題について自分の意見を形成しようとする場面 ・資料を概念や理論を用いて考察し、その成果から問いを見いだす場面 	<p>社会的現象等を多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめることができる</p>	<p>概念や理論を活用し、制度や政策の本質や日常生活に見られる人々の行為の意味をとらえることができる</p>	<p>社会的現象等をとらえる概念や理論を活用し、他の社会的現象等をとらえることができる</p>	<p>社会的現象等をとらえる概念や理論を活用し、原因と結果の関連性について考察することができる</p>	<p>社会的現象等を多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて、公正に判断することができる</p>	<p>様々な立場からの主張を、根拠に基づいて多面的・多角的に考察し、課題の解決に向けて、公正に判断することができる</p>
---	--	---	---	--	---	---	---	---

大学入学
共通テスト
において
問いたい
「思考力・
判断力・
表現力」

(注) 構想については、社会科科目目に見られる課題の解決に向けて、広い視野から構想（選択・判断）することを示している。（参考：『平成28年12月21日中央教育審議会答申』より）

○自由記述では、以下のことを問える可能性がある。

- ・社会的現象等を考察するにあたって、自ら課題設定し、適切な資料や方法を用いて考察することができる
- ・社会的現象等を多面的・多角的に考察し、自らが構想した過程や結果を諸資料などの根拠に基づいて論理的・効果的に表現することができる
- ・社会的現象等を多面的・多角的に考察した過程や結果を踏まえ、課題解決に向けて自分の意見を形成して、適切に表現することができる
- ・考察したことや構想したことから、新たな課題を見いだすことができる

【理科】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」についてのイメージ（素案）

検討中

科学的な自然観を育成するための各領域における特徴的な見方

- エネルギー（主に、物理）：量的・関係的な視点 ● 粒子（主に、化学）：質的・実体的な視点
- 生命（主に、生物）：多様性と共通性の視点 ● 地球（主に、地学）：時間的・空間的な視点

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

課題の把握		課題の探究（追究）		課題の解決	
抽出・整理した情報について、それらの関係性や傾向を見いだすとともに、課題を設定することができる	見通しをもち、検証できる仮説を設定し、それを確かめるための観察・実験の計画を評価・選択・決定することができる	観察・実験等の結果を分析・解釈したり、考察したりすることができる	仮説の妥当性を検討したり、考察したりすることができる	全体を振り返って推論したり、次の課題を発見したり、新たな知識やモデル等を創造したりすることができる	
図・表や資料等から、自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従って抽出し、関係性などを発見することができる	自然の事物・現象に係る仮説を立証するため、原理・法則に従い、その方法・過程などを決めることができる	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる	観察・実験等の結果から考察した情報と、自然の事物・現象の基本的な概念との整合性を、原理・法則に従って判断することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を基に、見いだした課題について、原理・法則に従って推論することができる	
図・表や資料等を基に、設定した条件で自然の事物・現象に係る情報を、原理・法則に従い、整理することができる	自然の事物・現象の基本的な概念を活用し、原理・法則に従って新たな情報を基に仮説を立てることができる	自然の事物・現象に係る新たな情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	自然の事物・現象に係る新たな情報と、結果などから得た情報を、原理・法則に従って統合することができる	探究活動を振り返り、自然の事物・現象に係る新たな課題について、原理・法則に従って再設定することができる	
	自然の事物・現象に係る情報を検証し、設定する条件などについて、原理・法則に従い判断することができる	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる	自然の事物・現象に係る様々な情報を、原理・法則に従って整理するときの根拠を見いだすことができる		
	自然の事物・現象に係る基本的な概念及び観察・実験の結果などを、原理・法則に従って比較分析することができる	自然の事物・現象に係る数値的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる	自然の事物・現象に係る数値的処理を一定の条件で行い、その結果を基に、原理・法則に従って考察することができる		
	自然の事物・現象に係る値について、原理・法則に従って処理し、グラフ等を活用して分析することができる				

大学入学
共通テスト
において
問いたい
「思考力・
判断力・
表現力」

【英語（リーディング）】作問のねらいとする資質・能力についてのイメージ（素案）

検討中

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

	A1	A2	B1	B2
CEFR 自己評価表 (参考)	例えば、指示やボスター、カタログの中よく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	ごく短い簡単なテクニカルなパンフレット、メモ、ニュース、広告や内容紹介のパンフレットなどから日常の単純な具体的予測がつく情報を取り出せる。簡単な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテクニカルな文が理解できる。起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	筆者の姿勢や視点が現れている現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
国の指標形式の 主な目標	日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 日常生活に身近な英語で書かれたごく短い物語や短文を参考にして、あらすじを理解できるようにする。 身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にして、概要を理解できるようにする。	日常生活において身の回りにある短い平易なテクニカルな情報を読み取ることができようにする。 平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 身近な話題に関する平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。	身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができようにする。 短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 社会的な話題に関する短い会話や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。	関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができようにする。 興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができようにする。 時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を讀んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。
説明文	①部分の把握 ※テクニカルな部分の把握して解 答する問題	平易で短いテクニカルな読み取り ・友人、家族、学校生活などに関する平易な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。	短い説明の読み取り ・比較的短い記事、レポート、資料などから、自分が必要とする情報を把握することができる。	幅広い話題を扱った英文の情報読み取り ・幅広い話題を扱った記事、レポート、資料などから、自分が必要とする情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※テクニカルな全 体を把握して解 答する問題	平易で短い説明(視覚情報付)の概要・要点把握 ・友人、家族、学校生活などの身の回りの事柄に関して平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、イラストや写真などを参考にしたが、概要や要点を捉えたり、推測したり、情報を事実と意見に整理することができる。	身近な話題や副読みのある社会的な話題に関する平易な説明などの概要・要点把握 ・身近な話題や副読みのある社会的な話題に関する記事やレポート、資料などから、概要や要点を把握したり、要約することができる。	時事問題や社会問題に関する説明などの情報読み取りや概要・要点把握 ・時事問題や社会問題について幅広く情報を得るために効果的な資料を自分で探し、概要・要点把握など、目的に応じた読み方をすることができる。
物語文	平易で短い物語(視覚情報付)の概要把握 ・平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、イラストや写真などを参考にしたが、概要を把握することができる。	平易で短い物語の概要把握 ・平易な英語で書かれた短い物語を読んで、概要を把握することができる。	短い物語の概要把握 ・短い物語や随筆の概要把握	現代小説や随筆の概要把握 ・比較的小説や随筆を読んで、概要を把握することができる。

[言語の動きの例]
 <コミュニケーション> ・ 言い換える ・ 言い直す ・ 繰り返す ・ 繰り返す ・ 繰り返す ・ 繰り返す
 <感情を伝える 等> ・ 驚く ・ 感動する ・ 望む ・ 驚く ・ 心配する など
 <気持ちや意見を伝える 等> ・ 報告する ・ 報告する ・ 報告する ・ 報告する ・ 報告する など
 <情報を伝える 等> ・ 説明する ・ 説明する ・ 説明する ・ 説明する ・ 説明する など
 <考えや意見を伝える 等> ・ 申し出る ・ 賛成する ・ 反対する ・ 反対する ・ 反対する など
 <相手の行動を促す 等> ・ 依頼する ・ 誘う ・ 許可する ・ 助言する ・ 命令する ・ 注意を引く など

○作問にあたっては、次の「言語の使用場面」及び「言語の動き」の例を参考にしてください。

[言語の使用場面の例]

<特定の表現がよく使われる場面> ・ 買物 ・ 旅行 ・ 食事 ・ 電話での応答 ・ 手紙や電子メールのやりとり など
 <生徒の身近な暮らしや社会で暮らしたにかかわる場面> ・ 家庭での生活 ・ 学校での学習や活動 ・ 地域での活動 ・ 職場での活動 など
 <多様な手段を通じて情報を得ること 等> ・ 本、新聞、雑誌などを読むこと ・ テレビや映画などを観ること ・ 情報通信ネットワークを活用し情報を得ること など

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

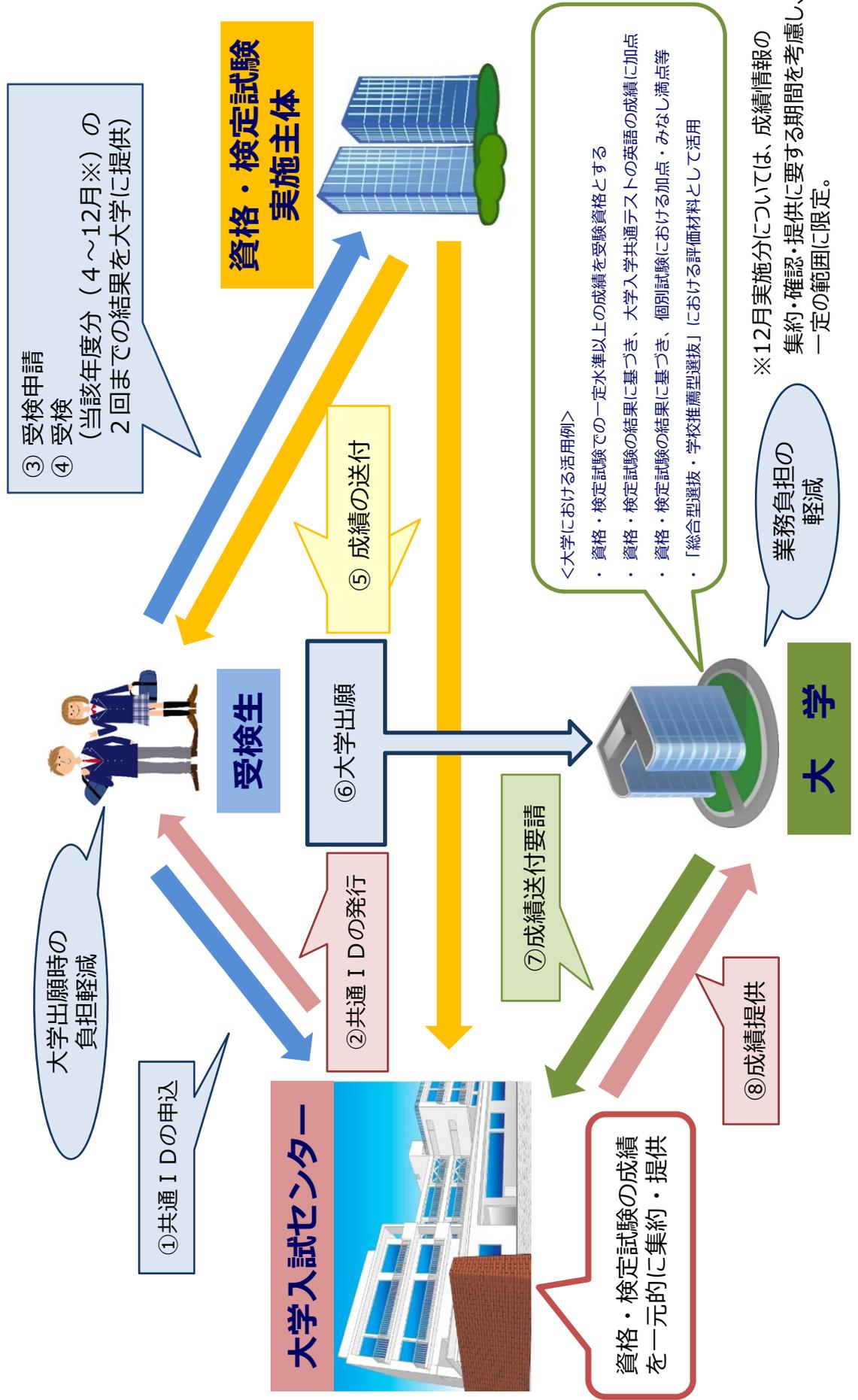
	A1	A2	B1	B2
CEFR 自己評価表 (参考)	はつきりとゆつくりと話して聞かせることができる。自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き取れる。	(ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事など) 直接自分に関連した領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。短い、はつきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事、学校、娯楽で普段使われる話し方の会話など理解することができる。話し方が比較的ゆつくり、はつきりとしているなら、時事問題やテレビ番組の要点を理解することができる。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。 たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。標準語が使われていれば、大多数の映画を理解できる。
国の指標形式の主な目標	口挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 口日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ること 口ゆつくりはつきりと話されれば、身の回りの事柄に関する平易でごく短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。	口短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 口身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 口ゆつくりはつきりと話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。	口身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 口比較的ゆつくりはつきりと話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 口比較的時間的ゆつくり、はつきりとしているなら、時事問題やテレビ番組の要点を理解することができる。	口母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 口身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。 口自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 口ある程度知識のある社会的な話題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。
説明	①部分の把握 ※音声の部分を把握して解答する問題	○日常生活における基本的な情報の聞き取り・把握 ・日付・曜日・時刻・単位を著す表現など、日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取り、把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明の聞き取り・把握 ・身近な話題や馴染みのある社会的な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、複数の情報を比較して判断することができる。	○時事問題や社会問題に関する説明からの情報の聞き取り・把握 ・時事問題や社会問題に関する説明を聞いて、当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ティベート、ディスカッション、エッセイライティングなどにおいて活用するために、必要な情報を把握することができる。 ○ある程度知識のある話題のメディアや講義等の情報の聞き取り・把握 ・ある程度知識のある話題を取ったメディアや講義等の説明を聞いて、必要な情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※音声の全体を把握して解答する問題	○挨拶や簡単な指示の聞き取り・把握 ・挨拶や簡単な招待など、個人的な事柄に関する短い簡単なメッセージを聞いて、話し手の意図を把握することができる。 ○身近な話題に関する平易で短い説明の概要・要点把握 ・友人や家族、学校生活など、身近な話題に関する平易で短い説明を聞き取り、概要や要点を把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題を取ったメディアや講義等の情報の概要・要点把握 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題を取ったメディアや講義等の説明を聞いて、概要・要点を捉えたり、複数の情報を聞き取って判断することができる。	○時事問題や社会問題に関する説明の概要・要点把握 ・時事問題や社会問題に関する説明を聞いて、当該の話題に関するスピーチ、プレゼンテーション、ティベート、ディスカッション、エッセイライティングなどにおいて活用するために、概要や要点を把握することができる。 ○ある程度知識のある話題のメディアや講義等の概要・要点把握 ・ある程度知識のある話題を取ったメディアや講義等の説明を聞いて、得た情報を他者に口頭で伝えるために、概要・要点を把握することができる。
会話・議論	①部分の把握 ※苦声の部分を把握して解答する問題	○身近な事柄に関する平易で短い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・友人や家族、学校生活など身近な話題に関する平易で短い会話を聞いて、場面の情報などを参考にしながら必要な情報を把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明の聞き取り・把握 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明を聞いて、必要な情報を把握したり、複数の情報を聞き取って判断することができる。	○多様な話題の長い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・多様な話題の長い会話を聞いて、必要な情報を把握することができる。 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、必要な情報を把握することができる。
	②全体の把握 ※苦声の全体を把握して解答する問題	○身近な事柄に関する平易で短い会話における必要な情報の聞き取り・把握 ・友人や家族、学校生活など身近な話題に関する平易で短い会話を聞いて、概要や要点を目的に応じて把握することができる。	○身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明の聞き取り・把握 ・身近な話題や馴染みのある社会的な話題に関する短い平易な説明を聞いて、話題とそれに対する各話者の発言の要点を把握することができる。 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を整理して比較・判断することができる。	○多様な話題の長い会話における必要な情報を把握すること ・多様な話題の長い会話を聞いて、話題とそれに対する各話者の発言の要点を把握することができる。 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を整理して比較・判断することができる。

「言語の動き」の例

○作問にあたっては、次の「言語の使用場面」及び「言語の動き」の例を参考にする。
 「言語の使用場面の例」
 〈特定の表紙がよく使われる場面〉：買物・旅行・食事・電話での応答・手紙や電子メールのやりとりなど
 〈生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面〉：家庭での生活・学校での学習や活動・地域での活動・職場での活動 など
 〈多様な手段を通じて情報を得る場面〉：本、新聞、雑誌などを読むこと・テレビや映画などを観ること・情報通信ネットワークを活用し情報を得ること など

「大学入試英語成績提供システム」について〈活用イメージ〉

大学入試センターに「大学入試英語成績提供システム」を設け、大学入学者選抜における資格・検定試験の活用を支援（「資格・検定試験」の成績を一元的に集約し、要請のあった大学に提供）※本システムによる成績情報は、大学入学共通テストを利用しない入学者選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜でも利用可能。



大学入試英語成績提供システム参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験(アルファベット・50音順)

	資格・検定試験実施主体名	資格・検定試験名
	Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)	ケンブリッジ英語検定
1		C2 Proficiency
2		C1 Advanced
3		B2 First for Schools
4		B2 First
5		B1 Preliminary for Schools
6		B1 Preliminary
7		A2 Key for Schools
8	A2 Key	
9	Educational Testing Service	TOEFL iBTテスト
10※	IDP:IELTS Australia	International English Language Testing System(IELTS) (対象:「アカデミック・モジュール」)
11	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC® Listening & Reading Testおよび TOEIC® Speaking & Writing Tests
	株式会社ベネッセコーポレーション	GTEC
12		Advanced
13		Basic
14		Core
15	CBT	
16	公益財団法人日本英語検定協会	Test of English for Academic Purposes(TEAP)
17		Test of English for Academic Purposes Computer Based Test(TEAP CBT)
		実用英語技能検定(英検)
18		1級 (対象:「公開会場実施」)
19		準1級 (対象:「公開会場実施」・「1日完結型」)
20		2級 (対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
21		準2級 (対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
22	3級 (対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)	
23	ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System(IELTS) (対象:「アカデミック・モジュール」)

※IDP:IELTS Australiaが実施するInternational English Language Testing System(IELTS)については、条件付きで、参加要件を満たしていると思なすことができるものと判断した。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200 (230) (210)	各級CEFR 算出範囲 (3299)	各試験CEFR 算出範囲 (1400)	9.0 8.5				
C1	199 180 (190)	3299 2600 (180)	1400 1350	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160 (170)	2599 2300 (160)	1349 1190 (1280)	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140 (150)	2299 1950 (140)	1189 960 (1080)	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120 (120)	1949 1700 (120)	959 690 (840)		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100 (100)	1699 1400 (100)	689 270 (270)					620 320

※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

□ は各級合格スコア

- 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該試験に対応する能力を有していることと認定できないことを意味する。
- ※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。
- ※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。
- ※ 障害等のある受検生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。

【国語】 試行調査の記述式問題における記述に当たっての留意点（イメージ）**1 大学入学共通テストにおける記述式問題の作問に当たっての基本的な考え方**

- 大学入学共通テストにおける記述式問題については、テストのねらいとして主に問いたい力を評価でき、選抜試験として客観性・公平性を確保した採点となり、自己採点ができるだけしやすきものとなることを基本的な考え方として検討を進めています。
- 昨年7月に文部科学省が公表した「大学入学共通テスト実施方針」では、「国語」の記述式問題において、特に「論理（情報と情報の関係性）の吟味・構築」や「情報を編集して文章にまとめること」に関わる能力の評価を重視することとされています。
これを受け、大学入学共通テストにおける記述式問題においては、本とりまとめ別添2-1に整理した「【国語】作問のねらいとする主な『思考力・判断力・表現力』、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）検討中」から、②及び③を問うことをねらいとして作問していく方向性です。
- 言語活動の場面としては、把握した情報やそれに基づく考えを一定の字数の中で表現できるかどうか問われる場面を設定することを想定しています。このため字数を指定し、解答の際にその字数を数えやすいようマス目に記入する形式としています。
- また、解答に当たっては問題で示された字数で記載することを正答の条件の一つとすると、高等学校「国語」のうち「読む能力」「書く能力」（思考力・判断力・表現力）を主に評価し、表記の誤り等は正答の条件に照らして内容面から判断することを検討しています。

2 試行調査の記述式問題における記述に当たっての留意点

- 大学入学共通テストの記述式問題における記述に当たっては、上記の基本的な考え方に基づきつつ、後述の（参考）でまとめたとおり、社会における表記のきまりは多様であること、学校における学習・指導の状況、大規模一斉試験であるという試験の特性や、新たに「実用的な文章」も題材となること等を総合的に勘案することが重要だと考えています。
- これを踏まえ、本年11月に実施する試行調査においては、次のような点を、解答を分かりやすく記述するための留意点として受検生に示す予定です。なお、この留意点に沿わない解答についての正答の条件の判断の在り方や、最終的な留意点の示し方等については、試行調査の結果の検証を踏まえて決定されます。

(マス目の使い方)

- ① 一マス目から書くようにする。
- ② 改行はしないようにする。
 - ※ 一マス目から書き終わりまでの間に空欄がないようにする。
- ③ 一マスに1字ずつ書くようにする。
 - ※ 次のいずれも1字として書くようにする。
 - 漢字（漢数字を含む）
 - 仮名（促音や拗音を表す字は、それぞれ1字として、一マスに1字ずつ書くようにする。
濁点や半濁点を付けた字は、それぞれ合わせて1字として、一マスに1字ずつ書くようにする。）
 - アルファベット、単位を表す記号
 - 句点、読点、括弧
 - ※ 句点、読点や終わりの括弧などが行の最初のマス目にくる場合や、始まりの括弧が行の最後のマス目にくる場合でも、そのまま一マスに1字ずつ書くようにする。
- ④ 文の最後の句点（。）は、はっきり書く。一マスに1字として書くようにする。
 - ※ 二つの文で書くことが指定されている時は、句点を書くことで、書き始めから句点までが一つの文であることを示すようにする。
- ⑤ 読点（、）は、必要に応じて書く。書く際には、一マスに1字として書くようにする。
 - ※ 文の意味が正答の条件と異ならないよう、必要な箇所に読点を書くようにする。

(修正の方法)

- ⑥ 不要な字は消しゴムで消し、文の途中で字を加える時も消しゴムで消して、書き直すようにする。
 - ※ やむを得ない場合は、消す字に二本線を引くようにする（文の意味が正答の条件と異ならないよう、二本線ははっきり引くようにする）。
 - ※ やむを得ずマス目外に加える字を書く場合は、指定の枠内に、挿入する箇所と字をはっきり書くようにする（文の意味が正答の条件と異ならないよう、挿入する箇所や字が分かるように書くようにする）。

(誤字や脱字等)

- ⑦ 誤りのないよう、正しく記載するようにする。
 - ※ 問題文に照らして、文の意味が正答の条件と異ならないよう、正しく記載するようにする。

例示

③※ 句読点（、）や終わりの括弧（）などが、行の最初のマス目にくる場合でも、そのまま一マスに1字ずつ書くようにする。

③ 一マスに1字ずつ書くようにする。
※ 句点・読点・括弧等もそれぞれ一マスに1字ずつ書くようにする。

① 一マス目から書くようにする。

⑤ 読点（、）は、必要に応じて書く。書く際には、一マスに1字として書くようにする。

③※ 漢数字や単位を表す記号は、一マスに1字として書くようにする。

④ 文の最後の句点（。）は、はっきり書く。一マスに1字として書くようにする。

② 改行はしないようにする。

③ 一マスに1字ずつ書くようにする。
※ 促音（っ）や拗音（例：や・ゆ・よ）を表す字はそれぞれ1字として、濁点や半濁点を付けた字（例：で・ば・ぴ・ぼ）はそれぞれ合わせて1字として、一マスに1字ずつ書くようにする。

③※ 始まる括弧（「など）が行の最後のマス目にくる場合でも、そのまま一マスに1字ずつ書くようにする。

⑥ 不要な字は消しゴムで消し、文の途中に字を加える時も消しゴムで消して、書き直すようにする。

⑦ 誤りのないよう、正しく記載するようにする。

、	の	手	。	継	規
新	五	続	「	続	則
た	十	き	が	し	に
に	七	を	条	て	は
部	%	経	件	三	、
と	の	て	と	年	「
な	賛	、	し	間	同
っ	成	生	て	活	好
た	を	徒	記	動	会
。	得	総	さ	し	発
	た	会	れ	て	足
	。	で	て	い	後
	よ	出	い	る	「
	っ	席	る	こ	に
	て	者	。	と	」

(参考)

- 国語の表記については、漢字や仮名などのほかに、文の終わりや意味の切れ目を明らかにするための「区切り符号」(句読点や括弧など)が現在では、一般的に用いられています。
区切り符号の使い方には、一定の基準はあるものの、目的や場面、様式(教科書や新聞、縦書きや横書き、原稿用紙や罫線など)、文章の種類(文学的な文章、論理的な文章、実用的な文章)等によって、また、それらの中でも、括弧「」の中の句点(。)の有無、読点の種類(、)など、使われ方に異なる点が見られます。
また、数字やアルファベットについても、縦書きか横書きか、一桁か二桁以上か、全角か半角か等によって、多様な表記が見受けられます。
- 文章作成の様式の一つである「原稿用紙」は、印刷技術の発展や字数を数える際の効率性などにより普及し、現在では、学校の学習場面での文章作成、入学や採用などの試験、各種応募の際の様式として用いられています。
原稿用紙の使い方には、明確なきまりはなく、行頭に句読点がかかる場合の書き方や、「や(のような始まりの括弧が行末にくる場合の書き方など、使い方に異なる点も見られます。
- 出版にも関連し、文字表示のルールとなる「禁則処理」(行頭に句読点や終わりの括弧などをおかない等の一定の禁則によって、文字を適切な位置に移動し、生じた空きを調整すること。)も、原稿用紙の使い方とともに、目的や場面、様式、文章作成ソフトウェアの種類やその設定などによって、多様な表記が見受けられます。
修正方法にも、削除や修正が一本線か二本線かなど、異なる点も見られます。
- 原稿用紙の使い方とともに、「字数の数え方」については、学校では、書き出しや改行後の最初の一マスをあけ、禁則処理を行いながら文章を書き、高校入試や大学入試の記述式問題などで字数を指定している場合には、マス目を用いて、区切り符号などもそれぞれ1字分として数える傾向が見られます。
なお、採点に当たっては、問いたい力に照らして内容を主とし、表記の誤りについては、全体の点数から一定の減点(誤りの数にかかわらず、決められた点数の減)とし、採点基準に基づき適正な採点となるよう、採点基準の詳細は各学校で定める傾向が見られます。

国語の記述式問題の成績表示のイメージについて（検討中）

- 国語の記述式問題の小問ごとの段階別表示は a ～ d の 4 段階表示とする。
- 国語の記述式問題の総合評価における 5 段階表示（A～E）のイメージは以下の図のとおりです。

〈総合評価のイメージ〉

問 1, 問 2	a, a	C	B	A	
	a, b	D	C	B	A
	a, c			C	
	b, b		C		
	a, d			B	
	b, c	D	C		
	b, d			E	D
	c, c	D	C		
	c, d			C	
	d, d	D	C		
				d	c
		問 3			

- 小問ごと、総合評価の段階別表示の具体的な内容については、平成 30 年度試行調査を通じて、引き続き検討されます。

当てはまる選択肢を全て選択する問題

【物理 第2問 問題のねらい】

ひもやばねにつるされた物体に見られる周期運動についての理解を基に、小学校における学習で取り扱った振り子の実験を題材として、新たな情報を比較・分析したり統合したりすることで考察・判断するなど、課題を解決する力を問う。

放課後の公園で、図1のようなブランコがゆれているのを、花子は見つけた。高校の物理で学んだばかりの単振り子の周期 T の式

$$T = 2\pi\sqrt{\frac{L}{g}} \quad \dots\dots(1)$$

を、太郎は思い出した。 L は単振り子の長さ、 g は重力加速度の大きさである。二人はこの式についてあらためて深く考えてみることにした。



図 1

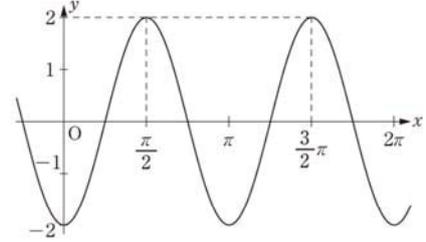
問 1 二人はブランコにも式(1)が適用できることを前提に、その周期をより短くする方法を考えた。その方法として適当なものを、次の①～⑤のうちからすべて選べ。ただし、該当するものがない場合は⑥を選べ。空気の抵抗は無視できるものとする。 1

- ① ブランコに座って乗っていた場合、板の上に立って乗る。
- ② ブランコに立って乗っていた場合、座って乗る。
- ③ ブランコのひもを短くする。
- ④ ブランコのひもを長くする。
- ⑤ ブランコの板をより重いものに交換する。

【数学Ⅱ・数学B 第1問[3] 問題のねらい】

(2) 与えられた三角関数のグラフから式を読み取る。

(2) 次の図はある三角関数のグラフである。その関数の式として正しいものを、下の①～⑦のうちからすべて選べ。 サ



- ① $y = 2 \sin\left(2x + \frac{\pi}{2}\right)$
- ② $y = 2 \sin\left(x + \frac{\pi}{2}\right)$
- ③ $y = \sin 2\left(2x - \frac{\pi}{2}\right)$
- ④ $y = 2 \cos\left(2x + \frac{\pi}{2}\right)$
- ⑤ $y = 2 \cos 2\left(x - \frac{\pi}{2}\right)$
- ⑥ $y = 2 \cos 2\left(x + \frac{\pi}{2}\right)$
- ⑦ $y = \cos 2\left(2x - \frac{\pi}{2}\right)$

解答が前問の解答と連動し正答の組み合わせが複数ある問題のイメージ

【第5問A 問題のねらい】

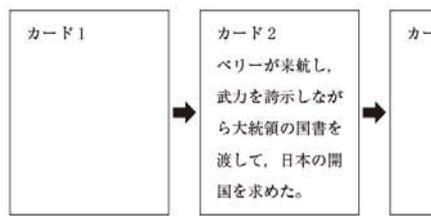
時代の転換をテーマとした学習過程を設定し、歴史事象の評価は必ずしも一義的に定まるのではなく多様な解釈が存在することを踏まえ、因果関係、事象の意味や意義を考察したり、根拠付けができる力を問う。

第5問 高校生の明子さん・太郎さん・武史さんは、江戸時代末期から明治時代にかけての勉強をしている。その学習で使ったA・Bの資料と会話文を読み、下の問い(問1～5)に答えよ。

A 幕末期の年表

西暦(年)	事項
1853	① ベリー来航
1854	日米和親条約調印
1858	② 日米修好通商条約調印
1860	桜田門外の変 (ア)
1863	八月十八日の政変
1864	禁門の変 四国連合艦隊、下関を砲撃 第一次長州征討(長州戦争)
1866	薩長同盟(薩長連合) 第二次長州征討(長州戦争) (イ)
1867	大政奉還 王政復古の号令

問 1 下線部③に関連して、明子さんは、このできごとの前後関係3枚のカードを作成した。次のa～dの文のうち、カード1、2、3の文の組合せとして適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。



問 3 明子さんと太郎さんは、なぜ江戸幕府が滅亡したのかを考えた。その結果、滅亡までの十数年間に、幕府が統治能力を失う重大なできごとがあり、それが幕府滅亡への画期(ターニングポイント)になったとの結論にいたった。明子さんは、年表中の(ア)のできごとを画期ととらえた。太郎さんは、年表中の(イ)のできごとを画期ととらえた。あなたは、どちらの考えを支持するか。支持するできごとと理由を正しく組み合わせよ。できごとは次の①・②のうちから、理由は下の①～④のうちから一つずつ選べ。

できごと 20

- ① 年表中の(ア)のできごと
- ② 年表中の(イ)のできごと

理由 21

- ① この事件の結果、流通機構が混乱し、幕府の市場統制力が弱まったから。
- ② この事件の結果、圧倒的な軍勢力を背景とした幕府支配が困難となったから。
- ③ この事件の結果、幕府は朝廷への報告を行い、諸大名にも広く意見を述べさせたため、外交を専断できなくなったから。
- ④ この事件の結果、一部の幕閣による専制政治を進めてきた幕府が、強権で反対派を押さえられなくなったから。

大学入試センター試験 受験上の配慮事項一覧

大学入試センター試験における受験上の配慮について、主な配慮事項は次表のとおりです。これらの配慮事項は、障害等の種類や程度にかかわらず、必要に応じて、申請することができます。また、複数の配慮事項を申請することもできます。

配慮の種別	配慮事項
解答方法や試験時間に関する配慮	点字解答 (試験時間を 1.5 倍に延長)
	文字解答 (試験時間を 1.3 倍に延長 又は 延長なし)
	チェック解答 (試験時間を 1.3 倍に延長 又は 延長なし)
	代筆解答 (試験時間を 1.3 倍 (科目によっては 1.5 倍) に延長 又は 延長なし)
	上記の他、マークシート解答においても試験時間を 1.3 倍に延長する場合があります。
試験室や座席に関する配慮	1 階又はエレベーターが利用可能な試験室で受験
	洋式トイレ又は障害者用 (多目的) トイレに近い試験室で受験
	窓側の明るい座席を指定、座席を前列に指定、座席を試験室の出入口に近いところに指定
	別室の設定
持参して使用するものに関する配慮	拡大鏡等の持参使用
	照明器具の持参使用
	特製机・椅子の持参使用
	車椅子の持参使用
	杖の持参使用
	補聴器又は人工内耳の装用 (コードを含む)
その他の配慮	拡大文字問題冊子 (14 ポイント・22 ポイント) の配付
	照明器具の試験場側での準備
	手話通訳士等の配置
	注意事項等の文書による伝達
	リスニングの免除
	リスニングにおける音声聴取の方法の変更
	試験場への乗用車での入構
	試験室入口までの付添者の同伴
	介助者の配置
	特製机・椅子の試験場側での準備
「最後列」や「試験室正面に向かって左側」などの座席の指定、試験時間中の薬の服用、吸入器の持参使用など	

(「平成 30 年度大学入試センター試験 受験上の配慮案内」からの抜粋)

平成30年11月試行調査（プレテスト）の主な実施スケジュール（予定）

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月
28日	30日		25日		月上旬 下旬		下旬	中旬	10日・11日		
実施概要・スケジュールの事前周知	各教育委員会及び国立・私立高等学校等へ募集通知		募集締切	募集人数の調整 試験会場の調整	試行調査協力校に決定通知文書発送・ 受検者情報登録依頼	受検者情報登録締切	関係大学に試験関係資料（実施要領等）の発送	試行調査協力校に受検票等の発送	試行調査の実施 関係大学に問題冊子等の発送 答案等の返送	採点・分析作業	分析結果の公表 試行調査協力校に採点結果を順次送付